

特集 協働のまちづくりって、なあに？

食生活改善推進員の活動で、食を通した健康づくりの輪が広がっています



皆さんの身近で行われている活動には、『協働』による取り組みがたくさんあります。

例えば、自治会などが地域の公園や川を清掃したり、市民やボランティアが子どもを見守る活動もその一つです。そのほかにも、子育てや健康増進、防災、観光、まちづくりなど、さまざまな分野で市民や団体が地域を良くするために活躍しています。

身近で行われているあの活動もこの活動も実は『協働』です

旧渋沢邸『中の家』の解説員。わかりやすい説明で、見学者の理解も深まります



地域の方々による清掃活動。定期的な活動で、まちは清潔に保たれています



協働のまちづくりって、なあに？

協働推進課 (☎ 574 - 6658)

協働とは、市民や団体、行政などが、それぞれの役割や特性を理解し、尊重しながら、『公共の利益』という共通の目的に向かって、協力して活動することです。このように書くと、とても難しいことのように感じるかもしれませんが、実は私たちの周りでは『協働』による活動がたくさん行われています。

市では、『協働のまちづくり』を進めています。今回の特集では、なぜまちづくりに『協働』が必要なのか、そして協働のまちづくりを支える方々の声をお伝えします。

ふかやシティハーフマラソンでは、さまざまな団体が力を合わせて大会運営をしています



たくさんのボランティアが、花を生かしたまちづくりを支えています



動しています。

これらの活動の中には、40年以上続いているものもあり、『協働』はずっと前から行われているのです。きっと「私も既にやっている」と感じたかたもいるのではないのでしょうか。

では、なぜ今、『協働』が必要とされ、注目されているのでしょうか。

今『協働』はなぜ必要なんだろう？

近年、地域社会の課題は多様化・複雑化しており、財政的・人的な制約がある行政だけでは、十分に対応できないことが多くなっています。一方で、まちづくりに積極的に関わりたいと考える市民や団体が増えています。市民や団体だけでは対応できないこともあります。

そこで、市民や団体が持っている大きな力と行政の特性を生かして、共に地域の課題を解決する取り組み、つまり『協働』が一層注目され、必要とされているのです。

協働が活発になると、地域の課題の解決だけでなく、まちづくり

に積極的に関わりたいと考える市民や団体の活動や活躍の場が広がります。

自分の住むまちを良くしたい！

協働が活発になり、これまで以上に住み良いまちになっていくことが、『協働のまちづくり』です。協働のまちづくりは、一人ひとりの「自分の住むまちを良くしたい」という思いから始まります。

まずは、自分の住む地域に関心を持って、そこにある課題を知り、その解決のために自分ができることを考え行動する、それが協働のまちづくり、住み良いまちづくりへつながるのです。

協働のまちづくりを進めるためには、市民や団体、行政がそれぞれ持つ情報を共有すること、そしてそれをまちづくりに反映する仕組みが必要です。

市では、こうした市役所内外のさまざまな個人や団体の出合いや活動をサポートするため、今年度から『協働推進部』を設置し、地域課題の解決に向け、取り組んでいます。

これも協働！

身近で、気軽に、多くの人と、交流できる憩いの場『**地域のお茶の間**』をつくりませんか？

問い合わせ 福祉政策課 (☎ 568 - 5041)



最近、身近な場所で市民同士が気軽に集まり、交流できる場所が減っています。そこで、家の空き部屋やお店の一区画、福祉施設や企業のホールなどに、地域の方の憩いの場となる『地域のお茶の間』をつくってみませんか？

市では、人が集える場所と運営者を募集します。場所の提供方法など、詳しくはお問い合わせください。

特集 協働のまちづくりって、なあに? ~現場の声~

「無いと自分たちが困る、だからやっている活動なんです」(台坂自主防災会 宮坂さん)



台坂自主防災会 会長
みやさかこうへい
宮坂浩平さん(上野台)

自分たちのまちを守るの味なものです。例えば、私たちの台坂自主防災会では、毎年春に実施する防災訓練のほかに、定期的に防災地図や名簿の更新作業などを行っています。いつ起こるか分からない災害に備えるための活動ですから、成果がわかりにくく、必要ないと思われることもあるかもしれません。

けれど、日頃から「いつと備えたり訓練しなければ、いざというときに何も役に立たないと思うんです。自分たちのまちを守るの味なものです。自分たちが困る、だからやっている活動なんです。だからとても大切で、やりがいのある活動です。



▲台坂自主防災会で実施している炊き出し訓練の様子

安心して住めるまちを、自分たちの手で作って「いつと」思います。

自分たちのまちを守るの味なものです。自分たちが困る、だからやっている活動なんです。だからとても大切で、やりがいのある活動です。

市内に119団体!
自主防災会の輪が広がっています

市では、平成29年度までに202ある自治会での自主防災会の結成を100%にすることを目標としており、現在119団体が結成され、年々自主防災会の輪が広がっています。

自主防災会は、平常時もまちや人を見守る、とても頼もしい存在です。今後も、市と自主防災会が協力・連携して、自主防災会の活動が充実していくことを期待しています。



総務防災課
堀雅士 防災係長

特集 協働のまちづくりって、なあに? ~現場の声~

「自分がやって楽しいから、ここまで続けられたのかな」(朗読ボランティア 井口さん)



朗読ボランティア
サーブの会 代表
いぐちとしこ
井口敏子さん(小前田)

平成6年にこの活動を始めて、今年で20年になります。小さな子どもたちへの読み聞かせのほか、現在は学校からの依頼を受け、中学生にも朗読を行っています。子どもたちはとても正直で、お話に興味を持ってないと、たちまち飽きてしまいますから、20年経った今でも、毎回念入りの準備が欠かせません。

物語を読み始めると、子どもたちはどんどん物語の世界に引き込まれていくのですが、その姿を見ることが、この活動の醍醐味ですね。それが楽しくて、やめられないです。



▲幼稚園での紙芝居の読み聞かせ活動の様子(井口さん提供)

活動が続けていけるのか
悩んだこともありました

本は人の心を豊かにする大切なもの。幼い頃から本に触れる機会を作るお手伝いができることはうれしいし、これからは子どもたちが読書の楽しさを知るきっかけになれるよう、一緒に楽しみながら活動が続けたいですね。

豊かな心を育む、貴重な機会
これからも続けたい取り組みです

月に1回、地域のボランティアさんに読み聞かせをしてもらっています。読み聞かせは、『豊かな心』や『人の話を集中して聞く力』を育てます。幼い頃には、人から本を読んでもらう機会はたくさんありますが、中学生にもなるとなかなかありませんよね。だから、生徒たちにとってこの読み聞かせの時間は、とても貴重な機会だと思っています。

これからも、ボランティアさんと力を合わせて、続けたい取り組みです。



花園中学校
清水勉 校長